

国労新小岩保線分会第21回定期大会開催

感染対策を考慮し、大会を開催

黙っていたら酷くなる！



5月14日(金)18時～国労千葉地本会議室において第21回分会定期大会を感染対策しながら開催しました。

はじめに鈴木副委員長が「他職場へエルダー出向で集まり切れないという状況である。それでも皆で頑張っていくしかないという意識で大会開催に至った。いい大会にしたい」と挨拶され、大会が規約により成立したことを宣言し、議事進行に入りました。

分会を代表して寺林分会長から「JR となって北海道から広域採用に応じて32年になる。この間、色々な職場を移動し経験したが、不当配転させられた出向職場では同じ国労の仲間と闘い続け、3年の期間を2年にしたことがあった。だが、今では組織人員が随分減り、運動しづらい状況だ。『だからといって逆に言わなければどんどん酷くなる』と言い聞かせながら頑張っている。この大会を機に『これからも頑張るぞ！』という意識をもってやっていきたい」と挨拶しました。

2020年度執行体制

執行委員長	寺林 義人	(西船橋保技セ)
執行副委員長	鈴木 富智雄	(東鉄船橋出張所)
書記長	嶋田 福実	(西船橋保技セ)
執行委員	石井 広幸	(西船橋保技セ)
執行委員	戸川 幸範	(西船橋保技セ)
執行委員	川島 浩志	(いすみ鉄道)
特別執行委員	江川 則雄	(JR 東日本物流サービス)
特別執行委員	松田 優一	(JR 東日本高架サービス)
会計監査	内田 清一	(東鉄船橋出張所)
会計監査	中村 真澄	(JR 東日本高架サービス)

千葉地本を代表して加藤書記長からは「千葉地本も300名未満となった。前を向いて建設的な議論をしながら皆さんと共に闘っていききたい。労働条件がコロナ禍を理由に低下させるわけにはいかない。分会大会をしっかりとやっていただき、地本に意見を」と挨拶しました。

この後、2019年度の経過報告と決算、2020年度運動方針(案)・予算(案)が一括提起され討論では、

■若手社員がJR退職となった。組合がない状況下、相談相手がいないという中での退職だったらしい。

■ただ単に文章や口だけでなく、若手が切羽詰まる前に悩んでいる状況を把握しながら接していかないといけない。

■コロナワクチン接種が始まっている。接種後に異変を感じた場合、会社側はどういった対応をするのか？不安だ。等々の意見が出されました。「私達に関わる課題は山積みされている。月1回の執行委員会を開催させ、意思統一をしていく」と集約され、運動方針(案)・予算(案)承認され、閉会となりました。